

大学における英語リーディング： 英語の「多読」コースと「訳読」コース

加藤 和 敏

近ごろ、大学の「英語の先生」の中で、自分の授業の教育内容と方法を公表し評価を求める方々があられた。おかしく聞こえるかもしれないが、「英語の先生」は必ずしも「英語」を専門としているわけではない。彼らの専門はたいてい英語学か英／米文学などであって、「英語」つまり英語運用能力強化コース（授業）の担当を兼ねているにすぎない。こうした「英語の先生」が論文を書くなら、専門の英語学や英／米文学などに関することであって、英語の授業内容や方法を取りあげることはなかった。ところが近年、こうした「英語の先生」方が「英語教育や英作文教育を専門とする方などから見れば、まったく片手落ちの見方しかできていない可能性も大きい」と言いながら、自分の英語授業を紹介しておられる。¹⁾ 安藤重治氏はその一人である。

安藤氏がその論文を執筆された動機がどこにあれ、ご自身の英語授業に関して書かれたことは他の「英語の先生」にとって大いに意義のあることであろう。なぜなら、今までのように「英語の先生」方が自分の英語授業に関して公に述べることなく、これを単に義務として黙々と遂行しているかぎり、大学の英語教育に進歩は望めそうにない。安藤氏のように声を挙げて相互評価を求めることで始めて英語教育の改善が始まるからだ。

筆者も安藤氏にならい、まさしく英語教育について門外漢ながら、英語リーディング・コースについて自分の授業を公表し、評価を求めたい。²⁾

安藤氏は「リーディングの授業としては、訳読が私に一番合った、もっとも効果的な教育方法であるという考え方は変わりそうにもない」と言い切っておられるが、³⁾ 大学生の英語リーディング力を強化するのに「訳読」のみで事足りるとは思えない。

筆者の考えでは、大学生の英語リーディング力の強化は「訳読」と「多読」を組み合わせてこそ効果が出る。

以下、英語の「訳読」と呼ばれる旧来の授業に見られる欠点をいくつか述べ、「訳読」の欠点を補う「多読」を説明しよう。

「訳読」とは、英語を日本語に訳す、翻訳する作業を授業で展開するもので、英語初学者にたいし有効な教授法と言える。英文の構造や指示語などに関する多くの誤解が容易に発見される利点もあって、明治くらい日本であまねく採用されてきた教授法である。

しかし、この読み方では、英語を和文の語順に合わせて理解しようとしなければならず、英文の左から右への一方的な流れに逆らう「返り読み」を伴ってしまう。その典型的な例は関係代名詞構文や目的語のある場合、接続詞構文などだが、ここでは関係代名詞構文だけに限定して説明しよう。

たとえば、Do you remember the village we lived in twenty years ago . . . ? (20年前ぼくらが住んでいた村を憶えているかい?) という英文では、the village の後に関係代名詞の省略があり、和訳する場合、いったん the village の後を読んだ後で、また the village へ目を「返す」という作業がおこなわれる。それは日本語の語順に訳を合わせるために避けがたいことかもしれない。しかし、上に挙げた英文はほんらい次のように、意味を成す語の塊 (chunk: /.../で示す) づつ左から右へと一方的に読まれるもので、行末以外で視線を右から左へと「返す」ことは避けるべきなのだ：

/Do you remember/ /the village/ /we lived in/ /twenty years ago/...?

(「訳読」ではない読み方として学生に意味を示すなら、「憶えているかい」、「あの村を」、「ぼくらが住んでいた (村さ)」、「二十年前にね」)⁴⁾

それでは「返り読み」の習慣を脱しないといけないのはなぜか。それは、意味を成す語の塊が「後から後から」追加されて英文が成立していくことに逆らった読み方となるからである。そして、「返り読み」の習慣は、リスニングの場合に聴解を妨げることになろう。この場合も音声はどんどん追加されるが、前の音声はまたたくまに消失していくので、音声の「返り読み」は不可能となる。

また、英文のセンテンスの中で読者の目がもどることで大幅な時間が費やさ

れ、やがて受講生が将来「速読」に臨んだとき、成功への障害となる。

さらに、「訳読」は日本語に訳すことを強要するため、必要以上の時間とエネルギーを浪費させてしまう。きまじめな学生の英文テキストの行間が英単語の意味（日本語）で埋め尽くされているのを見た方は多いと思う。学生は予習のさい、辞書で調べた「訳語」を必死に書き写すわけで、英文自体に目が向く時間にくらべ日本語に向けられる時間のほうがはるかに多くなる。また、授業においても、教授者によっては英語より日本語の「訳語」の適不適を微に入り細に入り述べ立てて時間を費やすため、半年でテキストの数ページしか読まれないことさえある。自習にしろ授業にしろ、「訳読」では小説なり物語なりが最後まで読まれる可能性はきわめて乏しいと言わざるをえない。学生が達成感を得ることなど期待できまい。

以上述べてきたことと重複するが、「訳読」の最大の欠点は学習者の英語摂取量ないし吸収量（これはinputと呼ばれる）の少なさを招くことである。しばしば「英語を6年間もやってきたのに、なぜ全然しゃべれないの」と問われるが、これは平均的日本人の英語摂取量の少なさをまったく見ていない愚問である。中学校高校と6年間やってきたといっても、日本人の英語学習量はいったいどれだけあるというのか。「6年間」の時の経過と英語摂取量が関係していないことに気づくべきだろう。「6年」たっても英語摂取量が絶対的に不足しているから、英語がしゃべれないのだ。日本人が英語摂取量を飛躍的にふやすには「多読」がもっとも確実かつ容易な途^{みち}であろう。

さて英語「多読」コースであるが、「多読」と言っても、筆者の「多読」コースの根本は学生を「英文和訳」の苦役から解放してやること、ここにある。⁵⁾「訳読」が日本語への翻訳にこだわる一方、「多読」は英文和訳を経由しないで直接英文の意味を理解しようとする。そこで、人によってはこれを「英語の直読直解」などと呼ぶこともある。すでに大学入試センターの英語問題に取り組んできた学生にとって、「英文和訳」なしの授業はさほど苦にならないどころか、「和訳」をしなくてよいからと受講希望する者も多い。

「多読」コースと言うかぎり、相当な量の英文を読みこなすのがこの授業の特

徴である。ところが、1週1回、90分ほどの授業の中で読める英文の量はたかがしれている。それゆえ、受講生が授業外で相当な量の英文を読むよう指導せねばならない。⁶⁾そこで、筆者の授業は授業外学習と授業内学習から成り立つことになり、受講生の学習活動1週分を図示すれば以下のようなになる：

授業外学習	授業内学習
○英文テキストの指定範囲（3回目）ペーパーバックのpp.53-95を読み上げる。	○英文テキストの指定範囲（3回目）pp.53-95の理解度チェック（小テスト）（20分）。 ○理解度チェックの説明理解と採点（10分）。 ○英文読解テスト①；説明理解と採点（30分）。 ○英文読解テスト②；説明理解と採点（30分）。

以上が筆者の「多読」コースの通常学習の内訳である。（このコースの導入段階は少し異なるので、後述する。）

上の表で「授業外学習」であるが、受講生は週毎に指定された範囲の英文を読み、「いつ、だれが、どこで、どうして、どうなったか」(5W1H)を把握しておくことになる。指定英文の範囲を以下に二つの例で示すが、学生の英語力レベルと進度によって量と難易度に変化がある（以下は英文学科2年生対象で6ヶ月でペーパーバック2冊を読破するものだが、他の学科対象であれば1冊を難易度の低いものにする⁷⁾）：

The 1st Step — Danielle Steel, *Safe Harbour* (New York: Bantam Dell, 2003)

	pages
I	1-19 (19)
II	20-52 (33)
III	53-95 (43)
IV	96-140 (45)
V	141-198 (58)
VI	199-261 (63)
VII	262-337 (76)
VIII	338-413 (76)

The 2nd Step — Nicholas Sparks, *The Guardian* (New York: Warner Books, 2003)

	pages
I	xi-39 (45)
II	40-102 (63)
III	103-179 (77)
IV	180-267 (88)
V	268-358 (91)
VI	359-492 (134)

このように指定された英文を読んで授業に臨んだ学生がまず受けるのは理解度チェックで、英問英答による小テストである（[資料1]）。⁸⁾ テストのさい、受講生はテキストを見てもよく、欄外に書き込んだ「いつ、だれが、どこで、どうして、どうなったか」といったメモを参考にしながら、てきばきと解答する。

つぎに「英文読解テスト①/②」について説明しよう。これは授業内で、英文をできるだけ速く読む訓練であって、ここでも「和訳」を極力排した読みが行われる。[資料2・3]に実例を掲載しておくが、A4用紙にして1～2枚くらいの英文を読んで英問英答の問題ないしT/F questions（正誤回答問題）に短時間で解答する作業である。正誤回答問題の訓練は大学入試センター試験の長文問題解きに似ている。問題の内容や長さに応じて1回の授業に1～3題と出題に幅がある。

以上の説明でおおよその授業内容がおわかりのことと思うが、さらにいくつか補足しておきたいことがある。私の授業の内でも外でも英語の辞書の使用に関しては許可していることである。もちろん、英文読了までの時間を設定してあるのだから、受講生は辞書の使用をそのつど判断するようになる。つまり、未知の単語に出くわした場合、辞書の使用で時間を費したくなければ文脈からの類推ですますようになる。もちろん、このことは導入期に指導しておく。年々乏しくなる入学生の語彙力に対して「辞書使用の禁止」といった厳しい態度で臨んでも学生のやる気を削ぐだけであろう。ただ、辞書で単語の意味を調べてもテキストの行間に書き写したりして時間を費やさないよう指示するのは不可欠である。同じ単語に再び出くわして忘れていたら、また辞書を引けばい

いのである。

さて、つづいて私の「多読」コースの導入期に行くことを説明しよう。これは、開講して1, 2週目の授業で行うことで、すでに88ページで言及した「返り読み」を避けるために「和訳」を排した英文読みの実践である。ここで注意すべきは、「返り読み」を避けるためにナチュラル・スピードでネイティブ・スピーカーが音読する声に合わせて読ませることである。（ここでは受講生に配布するプリントを提示しよう。）

○テープの音声に遅れないように読み、設問に答えなさい。

Do you remember the village we lived in twenty years ago, when the both of us felt that life would go on in the same way? I often wonder whatever happened to that cat, the one which would come to the back door for its milk each day, but never once set its foot inside the house. And then one morning it simply didn't turn up, but why we never knew. Perhaps it had grown tired of us, as later we grew tired of ourselves.

設問1：この文は手紙文の一部です。筆者は女性でしょうか男性でしょうか。

設問2：この文は手紙文の一部です。筆者はこのあと何を告げると予想されますか。

学生は、たぶん「訳読」から解放された気分はあっても「訳さなくて英文が正しく理解できるか」いささか心もとない状態であろう。そんな心配を教師が察知するなら、「返り読み」しない読み方—チャンクごと意味を追加していく説明—を行えばよい。こうした適当な教材は教師が注意していれば目に入ってくるものだが、たとえば『1分間に200語の英語が読めますか』のような本も参考にしてよい。⁹⁾

以上、筆者の英語リーディング・「多読」コースの授業を紹介させてもらったが、このコースに課題がないわけではない。このコースは半年で終わることが多いし、長くて1年で終わってしまうので、とても本格的「多読」と言えず、「多読」への導入ないし入門と言ったほうがよい。受講した学生が「自分でも英語ペーパーバックを読めるんだ」と自信をもてるように手ほどきするにすぎ

ない。授業開始時に授業計画を説明する際たいの学生は英語ペーパーバックの厚さを見て驚き、「自分がこんなの読み切れるのか」と不安がる。しかし、理解度チェックを伴うリーディング・スケジュールを2～3週こなせば不安はなくなっていくようだ。このコースが終了して、さらに学生がどんどん自分の好みに合った英語ペーパーバックを読破していくことを望みたい。

また、筆者の行っている「多読」コースは大学の単位認定を伴う授業で、どうしても成績評価をせねばならない。かといって、酒井邦秀氏のように評価を「出席だけで」出すというわけにはいかない。不本意ではあるが、筆者は評価を理解度チェックと英文読解テストのスコアを用いて行っている。受講生の努力に報いる措置のつもりでもある。しかし、「多読」コースをかかげるかぎり、「ある程度正しく読んだ英文の量をもって評価する」のがこのコース本来の姿であろう。ところが、(受講生にとっては今までの量とは比べようのないほど多いとしても) 実際には読まされる量が決まっているし、成績が理解度チェックと英文読解テストで評価される。この矛盾を解消するには、通常の授業形式をまったく越えた無単位の自由選択講座しかないようだ。¹⁰⁾

もう一つ、筆者の「多読」コースの有効性を定量的に判定する課題も残っている。すなわち、AないしBの成績で終えた学生が受講前と受講後でどれほど英語リーディング力を増したかを、何らかの試験で測定する必要がある。学生へのアンケートで「以前より英文を読むのに抵抗を感じなくなった」だの、「知らない単語に出会っても平気になった」だの、「自信がついた」だの、肯定的な評価はあるものの、主観的評価の域を出ていない。(必ずしも完全なテストと言えないかもしれないが) TOEICを使った評価、TOEFLを使った評価を受講前と受講後に行うことによって、このコースの有効性を示してみたい。

註

- 1) 「教養英語と英作文教育」『言語文化論集』(名古屋大学大学院国際言語文化研究科) XXVII(2005) (No.1), 3-22. 言うまでもなく、「ドイツ語の先生」も専門はドイツ語学やドイツ文学を専門とし、初級・中級ドイツ語などの授業を担当されているし、「フランス語の先生」で同様である。既修外国語と初修外国語のちがいもあるが、英語以外の外国語の先生方もぜひ授業内容の開示と相互評価をしてほしい。新年度向けシラバスだけでは、外国語教育

改善には不十分と思える。

- 2) 英語運用能力の強化をはかる授業は4種類に大別される。それは運用能力が受信能力（リスニング、リーディング）と発信能力（スピーキング、ライティング）から成るのに対応している。「英語の先生」は一般教育の（教養の）英語の授業において、4つの運用能力のうち一つないしは二つ以上の強化を目標とする。筆者が担当するのはリーディングだけではなく、英作文、英語コミュニケーションなど年度によって様々である。しかし、本稿で扱うのが、このうちリーディングである理由は、リーディングこそが英語運用能力強化の中核を占めるからに他ならない。
- 3) 「教養英語と英作文教育」 p. 7.
- 4) *College Super ELMer*（東京SIM外語研究所、1985） p.15.
- 5) 「多読のやり方」について酒井邦秀氏が以下の本で解説しておられる：『どうして英語が使えない？』（ちくま学芸文庫）（筑摩書房、1996） pp.235-328；『快読100万語！ペーパーバックへの道』（同）（筑摩書房、2002）
- 6) 筆者のコースでは授業外学習が必須となるが、これは学生の親にとってはわが子が「宿題」を出されたことと同じだ。子を大学まで行かせたプライドがあるのか、「大学生になったうちの子に宿題なんか出してもらいたくない」と言いだした。まさかと思ってもらっては困るのだ。中部圏の有名私立大学で筆者が授業を担当したとき、この苦情が出て、大学の英語科教員を通じて筆者に圧力がかけられた。大学設置基準にも、必要に応じて「授業外学習」を課すなどして単位を認定すべきとうたわれているのだが、一部の親には「授業外学習」は小学校中学校の「宿題」と同じで、自分の子が子ども扱いされていると思い込んで「けしからん」と言う。「授業外学習」が「大学生にふさわしくない」と言うなら、私の英語「多読」コースはやめざるを得ない。
- 7) 英文学科以外の学生にペーパーバック読み以前に指定するテキストとして、受講生の好みをはかりながら、以下のようなものを使用してきた：*Shakespeare's Romeo and Juliet, retold by Stuart A. Atkin* (Kodansha International, 1944) 4週で読了；*Nathaniel Hawthorne, The Scarlet Letter* (Yohan Ladder Edition)（洋販、1969）4週で読了；*Dickens, A Tale of Two Stories, retold by David Wharry* (Simply Stories Series, Penguin Books, 1991)（南雲堂、1993）4週で読了；*Rain Man: A Novel by Leonore Fleischer, retold by Kieran McGovern* (Penguin Books, 1998) 2週で読了。

また、このコースで主たるテキストとなるペーパーバックの選択であるが、選択の目安は使用される英語の難易度と面白さであろう。面白さは受講生によって多様だが、ストーリーの展開が見事に構成された読み物が喜ばれる。英語多読用ペーパーバックとして推奨されている執筆者20傑は試みしてみる価値はある（『PB300：ワケありのペーパーバック300選完全ガイド』[洋販、2005]）。ただ、これら20傑のうち酒井邦秀氏もおすすめのシドニー・シェルダンやダニエル・ステイール、リンダ・ハワードには要注意だ。彼らの物語には口

マンス物に避けがたい性的場面がある。それに、翻訳ならぬ「超訳」という名できわどい日本語表現が重ねられた訳書がある。これだけ読むと原典も煽情小説かと誤解される。こんなこともあって、こうしたテキストを使用すると、特殊な受講生にセクハラと訴えられる危険性がある。

- 8) 酒井邦秀氏は、英語の多読コースには理解度チェックが不要であり、むしろ有害だと主張されている（『快読100万語！』pp.170-75）が、筆者はそこまで学生を放任して授業が成立するのか懐疑的である。（実際に受講生に聞き取り調査をしたところ、理解度チェックに対する不満はあまりなかった。むしろ、チェックが英文を読む励みないし鼓舞してくれたと回答する受講生が1/3ほどいた。）すべての受講生が真にリーディング力を高めたいという明確な動機をもっているのなら、一行感想だけで読破した証しとなろう。そして、読破できた英語ペーパーバックの量で評価を出してもよい。
- 9) デビッド・セイン/森田修著（角川書店、2004）
- 10) 酒井邦秀氏によれば「授業外の活動という形ですね」ということになりそうである。『快読100万語！』p.169.

[資料1]: 理解度チェック（20分間に解答）

Safe Harbour Section 3: 53-95

- Q1) On the evening of the day when Ophélie met Matt for the first time, how did Pip behave and what did she do to Ophélie?
- Q2) Where did Ophélie and Pip go out for dinner for the first time after Ted and Chad died?
- Q3) When Pip had her foot injured, what did Matt first do for her?
- Q4) When Ophélie and Matt talked about her job, what did Matt suggest her to do?
- Q5) Why did Ophélie insist that Ted go in the plane with Chad?

番号	氏名	得点

採点者

[資料2]: 授業内英文読解テストー2（対象学生によって15～20分間に解答）

これは、ご存知、センター入試に使用された問題。

○ Read the following and answer the questions.

During my college days, I spent my summers as an assistant at a camp for junior high school students. It was work I looked forward to every year because it was a pleasure. Of my camp memories, there is one summer that stands out from the rest.

It was the first day of camp. About an hour after everyone had arrived, I noticed a small boy sitting alone under a tree. He was thin, pale and obviously uneasy. Only fifty feet away, all the other campers were playing, joking and enjoying getting to know each other, but he seemed to want to be anywhere other than where he was. He had a lost look, a look of deep loneliness. To be honest, I felt uncomfortable approaching him, but our senior staff members had instructed us to watch for campers who might feel left out, campers just like this boy. I knew it was my responsibility to talk with him even though I felt it would not be easy.

I walked up to him and said, "Hi, my name is Kevin, and I'm one of the assistants." In a small, shaky voice he shyly answered, "Hi, I'm Tommy."

"Welcome to camp Tommy. How's it going?"

"Okay, I guess," he said quietly, not looking at me.

"Do you want to join the activities and meet some new kids, or do you want to just sit here under this tree?" I asked with a smile. He replied unwillingly "I'm fine here. This camp is not really my thing." It was clear that camp life was new to him, and I somehow knew it would not be right to push him to join the other campers. Instead, I sat down and talked with him for a while, and then took him to his cabin. I hoped he would make some friends there.

After lunch the next day, I led the two hundred campers in songs. I looked over the enthusiastic crowd and noticed Tommy, sitting alone, staring at the floor. I realized he was going to require some very special care. That night at our staff meeting, I told everyone about him, and asked them to pay attention to him and spend time with him whenever possible. Tommy became our special project. We always helped him participate in the camp activities, and slowly he opened up.

Time passed quickly, and Tommy became more active every day. In no time camp was over. As the campers celebrated at a farewell party, I suddenly saw what would be one of the most vivid memories of my life. The boy who had once sat alone under the tree was now dancing. Towards the end of the party, he was dancing as if he owned the dance floor, and talking with people he had not even been able to look at a few weeks earlier. The changes in Tommy were dramatic. All of the camp staff saw him as the camp's greatest success.

About five years later, I got a letter from Tommy. I had not seen him since the night he was all over the dance floor, so it was a complete surprise to get a letter from him. And what the letter said was even more of a surprise.

In the letter, Tommy said, "I appreciate your help very much. On the first day of

camp, you came up to me while I was sitting alone. After that, you always gave me special attention and encouraged me to join activities when I hesitated. As a result, I gradually got to know the other campers, and I even became 'the king of the dance floor' on the last night. Because of your help that summer, my life changed. I gained so much confidence that I went back to school as a new person. My grades improved. I became very active and made new friends. Today, I got a letter that said I have been given a scholarship for college next year. I am proud to have gotten it, but I know that if you had not helped me, I would not have. I just wanted to thank you for helping me become a different person."

I have kept that letter; it is special to me. I read it sometimes to remind myself that we never know how much our actions may affect someone.

I. Choose the best answer.

1. What happened on the first day of camp?
 - A. Tommy felt a responsibility to talk with the lonely boy.
 - B. Tommy left the camp to return to his house.
 - C. Tommy tried to get to know other campers.
 - D. Tommy did not feel at all comfortable.
2. What did Kevin do to help Tommy?
 - A. He taught him how to become a good dancer.
 - B. He decided to stay with him in the same cabin.
 - C. He suggested that Tommy stay under the tree.
 - D. He asked the assistants to take care of him.
3. What happened on the last night of camp?
 - A. Kevin felt sorry about Tommy's big change.
 - B. Tommy demonstrated his new confidence.
 - C. Tommy wanted some friends to talk with.
 - D. Kevin got a letter from Tommy.
4. How did the camp affect Tommy?
 - A. He changed into a new person.
 - B. He became a little more lonely and shy.
 - C. He lost the confidence to make friends.
 - D. He was happy with his high school scholarship.
5. What did Kevin gain from his experience with Tommy?
 - A. He learned he was able to make a real difference in someone's life.
 - B. He realized that he really enjoyed his work as a camp assistant.
 - C. He realized he should force campers to participate in activities.
 - D. He learned that he did not know how to be a helpful camp assistant.

II. Choose three sentences true to the reading.

1. Kevin did not enjoy his summer job at camp because he did not like uneasy campers.
2. At the beginning of camp life, Tommy looked as if he wished he were somewhere else.

3. Campers who did not join the activities were given special attention by the assistants.
4. Most of the children at the camp enjoyed participating in singing after lunch.
5. Kevin asked the other campers to help Tommy because he did not want to.
6. The camp staff found that Tommy was a failure on the final day of camp.
7. If Kevin had failed to help him, Tommy would not have remained lonely at the camp.
8. Tommy learned to make friends with others by hiding his true feelings.

	1	2	3	4	5
I					
II					

番号	氏名	得点

[資料3]: 授業内英文読解テストー2 (15分間に解答)

○Read the following and answer the questions.

A Nice Summer Day

No one took an umbrella to work that day because the weatherman said that it wouldn't rain. It looked like it would be a nice summer day. In fact, it was quite sunny in the morning when everyone left for work. The sun was still out at lunch time, so a lot of the office workers got sandwiches from take-out shops and had lunch outside in the parks near their office buildings. Some of them even thought they would try to get off from work a little early that day. They were hoping that they could find the time for some swimming, sailing, or tennis before the sun went down that night.

Then, while all the office workers were at their desks in the afternoon, the clouds started to come. By 4 o'clock it began to get dark outside. It looked like it might rain, but no one knew for sure. Then by 5 o'clock it happened. There was a cloudburst. A cloudburst is a very heavy rain with some wind. It is a surprise because it comes very quickly. When it hits a city at rush hour, for example at 5 o'clock at the end of the work day, it is just terrible. Because it was rush hour that day, cars, buses, and taxis were all trying to get out of the city at the same time. The rain stopped the traffic for hours. It took an extra long time for everyone to

get home that night. When they did, they were tired, hungry and, of course, still quite wet. Needless to say, no one bothered to listen to the weatherman on TV that night. The next morning, when they saw a few clouds in the sky, they took their umbrellas with them.

A. Choose the right answer.

1. A weatherman is a person who
 - a. talks about rain. b. gives weather reports.
 - c. is a TV actor. d. makes weather.
2. Burst (a part of the word cloudburst) probably means
 - a. to close quickly. b. to be sunny.
 - c. to open quickly. d. to be dark.
3. If you see clouds in the sky
 - a. it might rain. b. there is going to be a cloudburst.
 - c. it will rain. d. there isn't going to be a cloudburst.
4. Another expression for needless to say is
 - a. later. b. of course.
 - c. for example. d. as well as.

B. Answer the questions in English.

1. What kind of day was it when everyone left for work?
2. By 4 o'clock what happened?
3. What was its effect during rush hour?
4. When people got home that night, how did they feel?

Answer sheet

A	1	2	3	4

B	1	
	2	
	3	
	4	

No. Name Score